聖歌集改訂ニュース

クリスマスに歌いたい！『古今聖歌集試用版』

　降臨節に入り、クリスマスの歌が歌える期節になりました。一足早く、街にはクリスマス・キャロルが溢れています。さあ、教会の礼拝でも高らかに歌いましょう！と思って、降臨節第一主日からの聖歌を決めはじめました。今度の聖書日課は「Ｃ年」か、はてさてこんな感じかな、と見渡してみると、おやまぁ、昨年の使用聖歌の番号と代わりばえがしないではありませんか。それもそのはず、『古今聖歌集』では「降臨節」の聖歌が１６番までしかありません。でも、主日は４回あります、一主日に４曲歌うとすれば、単純計算で１６曲必要ですね。『古今聖歌集』だけでは「持ち駒が少ない」という感じが否めません。勿論、『古今聖歌集』のその他のところからいくらでも用いることができますから、「降臨節モノ」ばかりにこだわらずに選んでみましょう、とやっていると、結局、前年と似たり寄ったりの番号配列になってしまうのです。読まれる聖書が三年周期であるのにそこで歌われる聖歌がほとんどおなじって、どうなんでしょう？それらがそれなりに当てはまっているのも事実なのですが、「もう少し、礼拝のインテンション（意図）に使用聖歌においても近づきたいっ！」とつい欲張りたくなってしまうのです。

　例えば、降臨節第二主日では、洗礼者ヨハネが登場します。「荒れ野で叫ぶ声、主の道を整えよ」とのモチーフの聖歌はないものか、と探してみると…ちゃんとあるんですね。『The New English Hymnal』の１２番（曲は『古今』４４９番「WINCHESTER NEW」）では、洗礼者ヨハネの叫びを通してみ子の訪れの備えが歌われています。探せばあるじゃないか！残念ながらこれは、『試用版』には収録予定がまだありませんが…（でも別な曲が収録されますからご安心を）。

　また、降臨節第四主日のＢ年では、マリアへの受胎告知が読まれます。クリスマスイブのキャロル礼拝などでもよく読まれる箇所です。「おめでとう！恐れるな！」という天使のみ告げに、戸惑いつつも「この身に成りますように」とすべてを受け入れていったマリア、その出来事を歌った名曲「ガブリエルのメッセージ（み使い来たり告げん）」が、『試用版』には入ります。これは英国の聖歌隊の奉唱による礼拝でも、受胎告知の日課の後に必ずと言ってよいほどに、頻繁に歌われています。これを例えば今年、Ｃ年の降臨節第四主日の福音書前の歌（昇階聖歌）としても、用いてみてよいでしょう。Ｃ年の日課では、マリアのエリサベト訪問の記事が読まれます。その前に受胎告知の歌を歌うならば、そこで主イエス誕生前のドラマが、一つの主日礼拝の中で描き出されてくるのです。

　これらの例で思うのですが、総論的ではなく各論的な聖歌が、意外と礼拝に用いやすい

かも知れない、ということです。主を迎える心を備える降臨節の聖歌に、一つの出来事、（それが洗礼者ヨハネであったり、受胎告知であったり）に焦点を絞ることで、その素材をどのように礼拝の中で用いるか一聖書日課との関連も含めて、可能性が広がるのです。総論・概論的な内容は一見すると普遍性を持つような気がします。しかし、より限定された内容に集中するとき、出来事としては断片であっても、礼拝における歌としては意図的に使えるのです。

クリスマス当日、いよいよ喜びの歌が歌えます。やっぱり『古今』１８番（神には栄え）、２０番（み使いの主なるおおきみ）は必修でしょうね。でも、まだまだたくさん古今東西の名曲が輝いています。世界的にポピュラーなのに、聖公会の教会では聴いたことがない聖歌がたくさんあります。毎年同じ聖歌の配列で、それらの宝を見つめないでいるのは、あまりにもったいない、それ以上に信仰生活・礼拝生活に対する「怠惰」でもありるように思います。『試用版』、そして来るべき「本格改訂版」では、是非、それらの宝をわたしたちの教会の宝として歌い継いでまいりましょう。

現代のクリスマスの歌にも光るものが次々に生み出されています。例えば「うまやのあかり空を照らし」は、ルカ福音書19章40節にある、群衆の賛美の声が黙しても「石が叫びだす」という箇所からインスピレーションを受けた、『米国聖公会聖歌集1982年版（The Hymnal 1982)』の１０４番として収録されていた歌です。み子の誕生を祝うと同時に、主イエスの生涯のメッセージが想起されています。

そのような意味からも、クリスマスには是非、キリストの生涯についても歌いたいものです。例えば『古今』３３１番「まぶねのなかに」も良いですね。『試用版』収録曲では、アイオナ共同体からの「ベツレヘムの村（The Word of Life)」がお奨めです。これは、原題が表しているように「いのちのことば」をキーワードに主イエスの生涯を歌っています。降誕日当日の福音書（ヨハネ福音書１章「初めに言があった」の部分）への導入としてもふさわしいと思います。

改訂委員会では、作業の段階から、礼拝で歌われるシチュエーションをかなり意識してきました。日本聖公会の様々な教会の礼拝状況を想像しながら、その会衆の音楽的実力・底力を信じて取り組んでいます。しかし少人数の委員の経験に基づく認識では、不十分です。どうぞ、皆さんの礼拝の中で『試用版』をどんどん歌ってみてください。どのような状況で、どのような歌を用い、いかなる賛美となったか、その反響を委員会に寄せてください。それが何より、わたしたちの教会の礼拝と音楽をより豊かに広げていく、大きなステップになるのです。

司祭 パウロ　宮崎 光（東京聖三一教会）

『改訂ニュース“ 読んで、伝えて、歌う！ ”』　北海道教区・礼拝音楽研究会

私達の礼拝音楽研究会は増補版が出た年の11月に発足しました。ナザレ修女会において開かれた第一回『礼拝音楽担当者セミナー』の報告会が藤井司祭と須田明夫兄によって10月にもたれ、その時、“ 今後も礼拝音楽について学びあいたい ” と言う有志の集まりで始まりました。

当初30人位会員がいたようです。現在は半数になってしまいましたが、植松主教始め聖職者の方が４人、オーガニスト７人、関心のある人４人、という内訳ですがテーマによっては、各教会にも案内を出しています。植松主教も広い北海道に点在している24の教会の巡回他多忙な中、都合をつけて出席してくださいます。主教様が出られない時には、三千代夫人が出席してくださる事もあります。

会の運営は長い間、須田明夫兄が一人でやってこられましたが、他に教会建築の事、ミレニアム・フェスティバルの事などが重なり、98年から２人の会員が書記・連絡・会計を受け持ち、司会進行を交代で行っています。

今年の例会について少し報告しますと、

１月　年間の計画について

２月　主教のお話（大雪で流会！残念…）

３月　イースターに向けて（中止）

４月　聖公会の聖歌（中止）

５月　イースターの振り返り（中止）

６月　聖公会の聖歌について

（『たたえのうた』から増補版まで）

７月　弾きづらい曲、歌いづらい曲

（415、83、403の第２譜、増26など）

※ちなみに弾きづらいとは、弾きにくいの意の北海道弁です！！

８月　休会

９月　日曜学校で歌いたい聖歌

（プレイズワールド、子供の為のクリスマスカンタータ、賛美歌２１等から）

10月　弾きづらい曲、歌いづらい曲　パート２／改訂ニュース３号以下に添付されている曲を歌う（これがすごーく難しかったのです。でもこのレポートのタイトル“ 改訂ニュース・読んで、伝えて、歌って!!（時には、読もう、歌おう、伝えようにもなります）は、あまりの難しさから必要なキャッチフレーズとして、この回で生まれたのです!!

11月　色々な楽器で礼拝を豊かに

（チェロ２台…１台は、はるばる旭川から藤井司祭が持ってこられた物。バイオリン、リコーダー、バロックパーカッション、トライアングル、タンブリン、リードオルガン…等）

11月の例会をもって今年の例会はひとまず終わったのですが、今年はこの他に特別な事がありました。それは!!　11月１日に改訂委員の鈴木隆太兄から直接、改訂の進み具合、そして10月の例会で泣いた(!?))新しい聖歌について学ぶ会をもつ事が出来た事です。急な事だったのですが、いつもの例会より多くの方が集まり、主教夫妻も参加してくださいました。鈴木委員は皆が入り易そうな曲から、苦手な曲、クリスマスに合わせて、と委員会の作業のつらさなど全然感じさせない？とても楽しいトークを混えながら何十曲も教えて下さいました。しかもこの会が小さな会なので、お仕事で来札される事があったら、そのついでに･･･と言う図々しいお願いを聞いて下さったのです！おかげで、試用版の事がより身近に感じられるようになりました。

2001年には、教区としてこのような学びがもたれる事を願っています。

（文責　礼拝音楽研究会会員　上平佑子）

【改訂委員会から】

◆まず、今世紀中に聖歌集試用版を出版できなかったことをお詫びいたします。委員会では忙しい中、全力を注いで参りましたが、予想以上に時間とエネルギーを要し、また、著作権処理の問題もあって、年内の出版を延ばさざるを得なくなりました。2001年聖霊降臨日を目指しておりますので、ご理解をお願いいたします。詳細は聖公会新聞12月号掲載の委員長森主教の記事をお読みください。

◆その代わり、というわけではありませんが、今回はクリスマスを中心に25曲の新しい聖歌をまとめてお送りいたします。一目見ると難しく感じられる曲もあるかもしれません。けれども、一本指でメロディを弾くだけでもよいので、まずは是非 ”音 ”にしてみていただければ幸いです。

◆11月30日から12月1日にかけて、第6回教区礼拝音楽担当者会が開かれました。古今聖歌集増補版が出版された1995年秋に、その紹介と ”新しい聖歌を歌おう ”というキャンペーンを展開するために始められて6年目。今回は会館ができたばかりの北関東教区、大宮聖愛教会をお借りして行いました。各教区から１４名、管区２名、聖公会新聞１名、傍聴５名、委員５名、途中の出入りはありましたが、総勢２７名が参加しました。

セッション１の各教区の礼拝音楽の状況報告では、委員会からのお願いに応えて、改訂ニュースがどのように読まれているか、また、ニュースに添付されてくる新しい聖歌がどう受け止められているか、どの教区も担当者の方々が色々苦労されて情報を集めてくださいました。お忙しい中のご努力に大変感謝しております。残念ながら、ニュースがなかなか読まれていないということもわかりました。新しい添付楽譜も、多くの教会では送られてくるだけでは、すぐに音にすることが困難だということもわかりました。そこで、翌日のセッション３では、広報をどう展開していったらよいのか、委員会として、また各教区としての取り組みを話し合いました。委員会では、改訂ニュースをより読みやすくする努力をする一方で、より信徒のみなさまに関心を持っていただくために、来年から復活する聖公会新聞に連載される改訂関係のコラムを各教区報に転載していただくよう、担当者を通してお願いしました。

セッション２の委員会からの報告では作業状況、そして主に新しい聖歌、用意した詩編、カンティクルを紹介しました。言葉よりも何よりも、会期を通して、夕の礼拝、朝の祈り、聖餐式など、実際の礼拝においてそれらの聖歌が歌われ、ご一緒に感謝、賛美を捧げられたことが、一番皆様にご理解をいただけたことだと思います。

短いながら充実したときでした。今年初めて参加された方々の新鮮な感覚にも感謝しております。”よい聖歌ばかりだった ”というご感想は、どれほどの励ましだったか言葉には尽くせません。

◆12月6、7日京都にてミレニアム最後の委員会です。

（文責 加藤啓子）

発行：聖歌集改訂委員会
ご意見・ご質問は日本聖公会管区事務所まで
〒162-0805 東京都新宿区矢来町65
TEL 03-5228-3171 FAX 03-5228-3175
E-mail:hymnal.po@nskk.org